



天守閣木造復元よりも 福祉・暮らしに

名古屋城天守閣の現状や課題について、名古屋市が市民と意見交換するタウンミーティングが、12月上旬から各区で開催されています。河村たかし市長も参加して、さかんに木造復元をおおっていますが、いま急いで進めるべきなのではないでしょうか。



400億円？ 市民生活が犠牲に

名古屋城天守閣の木造復元には、巨額の費用がかかります。概算経費は270億円～400億円。河村市長の意向通り東京五輪までに完成させようとするれば、工期は3年程度となり、毎年90億円～130億円もつぎ込まなければなりません。

名古屋市の財政は、大企業・金持ち優遇の市民税減税によって110億円余も税収が減っています。市の財政収支の見通しでは、2019年度には176億円もの歳入不足が生じます。こんなとき天守閣に莫大なお金をつぎ込んだら、福祉・

暮らしの予算にしわ寄せが及ぶことは避けられません。

財源あるなら

敬老パスの対象をJR・名鉄・近鉄まで拡大(約52億円)、市立中学2年生の35人学級実現(約5億円)などを優先すべきです。



タウンミーティングでも木造復元について疑問や批判が相次いだ(12月16日、名東区役所講堂)

河村市長「稼げる街にする」というが・・・

経済効果は敬老パスが3倍以上

河村市長は「福祉を充実させるためにも、木造復元して、稼げる街にする」と、タウンミーティングでも主張しています。

名古屋市の試算では、木造復元で“稼げる”経済波及効果は約100億円。一方、年間予算130億円の敬老パスは、お年寄りの外出をうながす「社会参加」など様々な効果があり、経済効果は直接効果で316億円、波及効果も加えると約500億円と試算されています。

「税金は、天守閣の木造復元よりも福祉・暮らしに回せ」——これが多くの市民の思いです。

敬老パスの経済効果316億円 事業費の2倍以上

社会参加効果	外出が週1.2回から1.7回へ パスが無いと出かけない高齢者48000人
健康効果	パスによる増加歩行数1400歩
経済効果	1人平均消費額4210円/回 喫茶代は全国1位で12367円/年
環境効果	パスの利用で車使用を控える人4万人 二酸化炭素の削減6500トン

「税金は、天守閣の木造復元よりも福祉・

100億円の経済効果に根拠なし

日本共産党議員の本会議質問で、木造復元の「経済波及効果100億円」の根拠があいまいなことがはっきりしました。

試算は、名古屋城の入場者数が、現在の年間165万人から330万人に倍増することが前提。その入場者数の倍増根拠は、8年前に市が実施した本丸御殿に関するアンケート結果から、類推に類推を重ねたもので、根拠としては薄弱です。

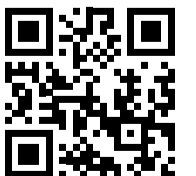
いま一番人気の姫路城でさえ、今年度の入場者数は200万人程度と予想されています。入場者数が330万人というのは、余りに過大な見込みです。



2015年3月公開の姫路城

日本共産党はこう考えます

- ①名古屋城天守閣については、耐震補強を含む長寿命化をすすめ、ぼう大な費用を要する木造復元については将来の市民にその判断をゆだねる。
- ②二之丸庭園の保存整備を優先するなど、「名古屋城跡全体整備計画」に沿って総合的かつ計画的に進め、城跡全体としての魅力向上につとめる。



党市議団のホームページへ